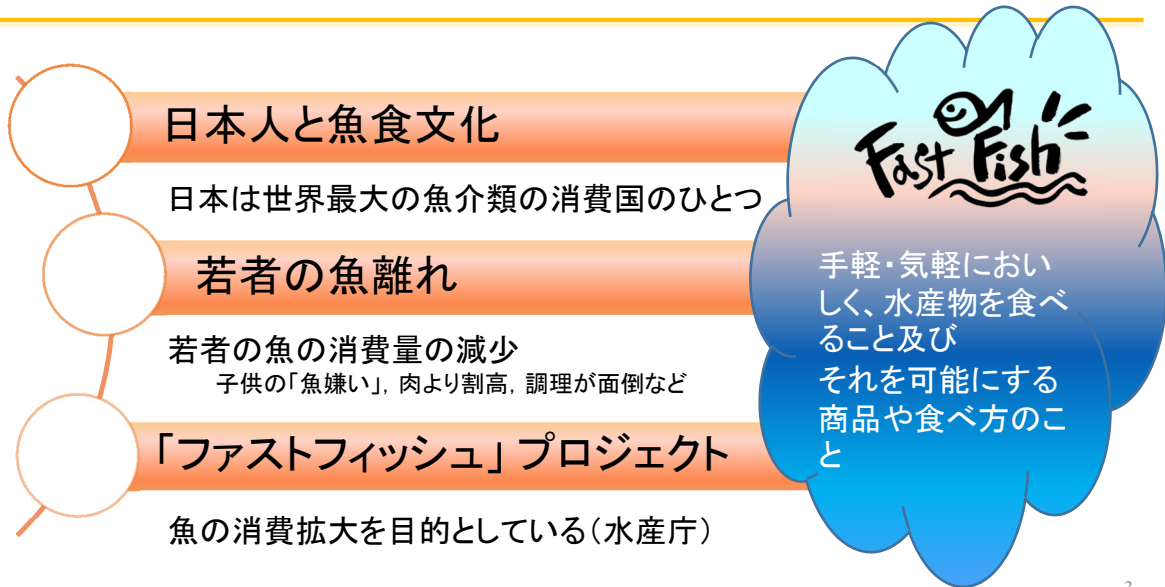
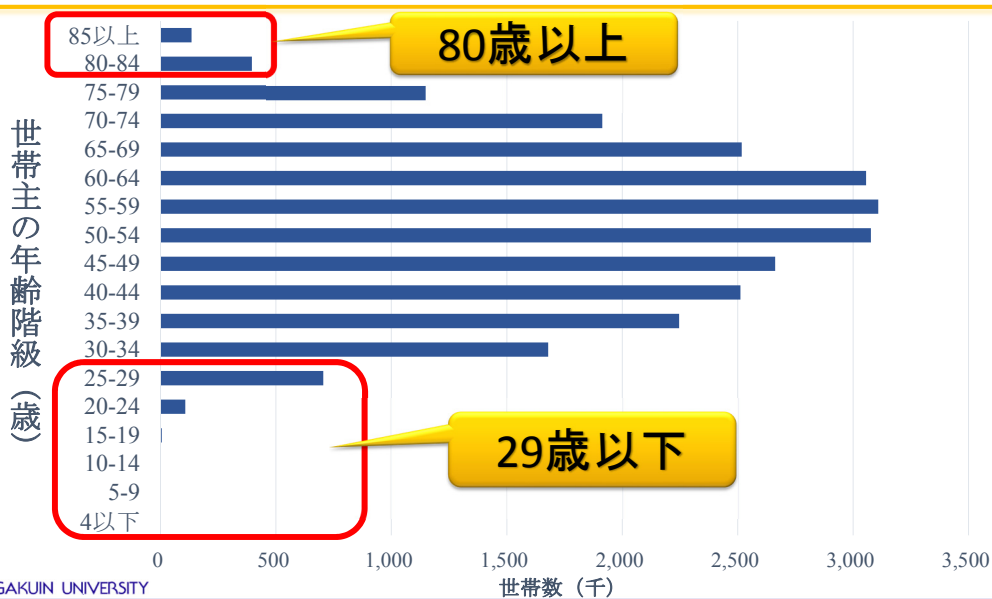


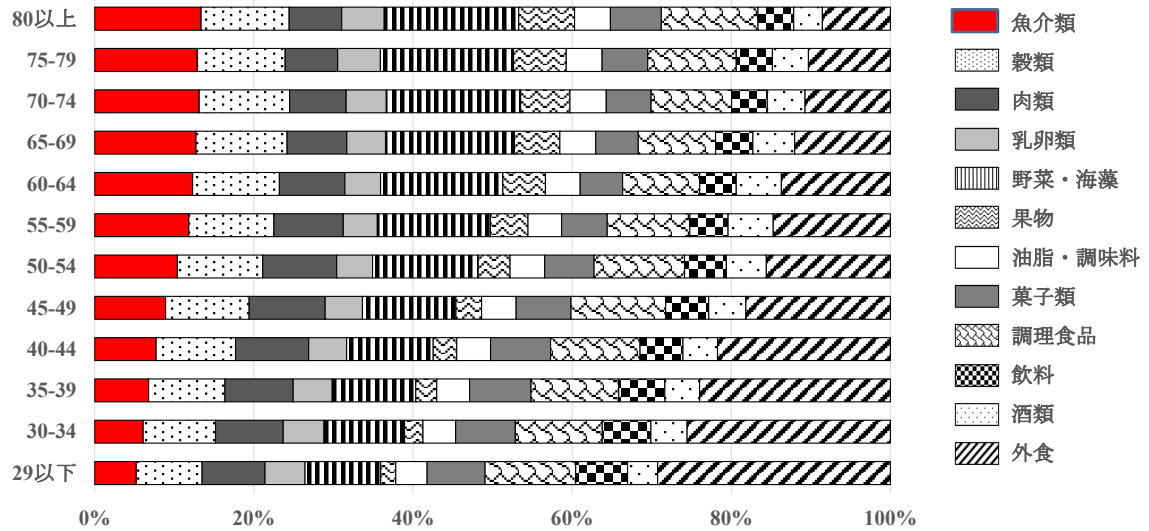
1-1. 背景



1-2. 世帯主の年齢階級の分布と再分類(平成16年)

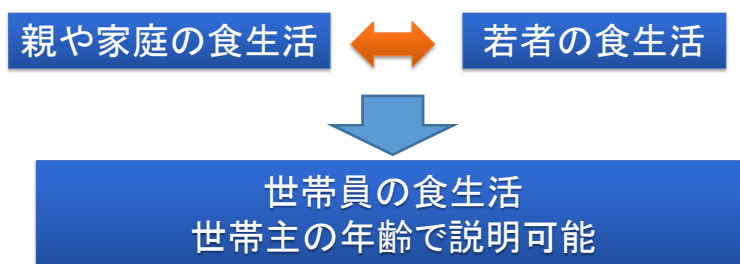


1-3. 年齢階級別の各食料品目の支出割合（平成16年）



1-4. 世帯属性として世帯主の年齢階級を使用

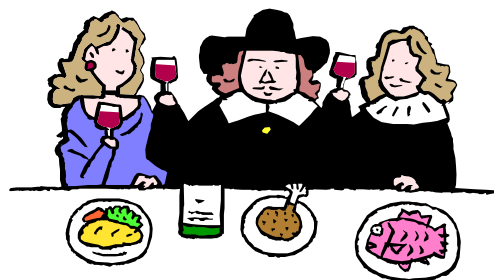
① 世帯属性として世帯主の年齢階級を使用



② 世帯員一人当たりの食費の算出

研究の流れ

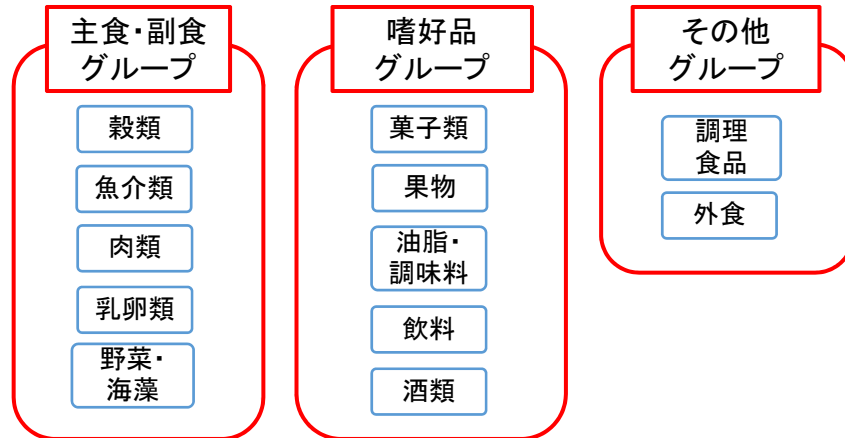
1. 食料支出に占める「魚介類」支出額割合などと年齢階級による違いに着目し、平成16年における「魚介類」支出額に関して分析を行う。
 - 「魚介類」の代わりに消費していると考えられる食料品目を検討する
2. 「魚介類」支出額割合の経年変化を見る。
 - 平成元年, 6年, 11年, 16年



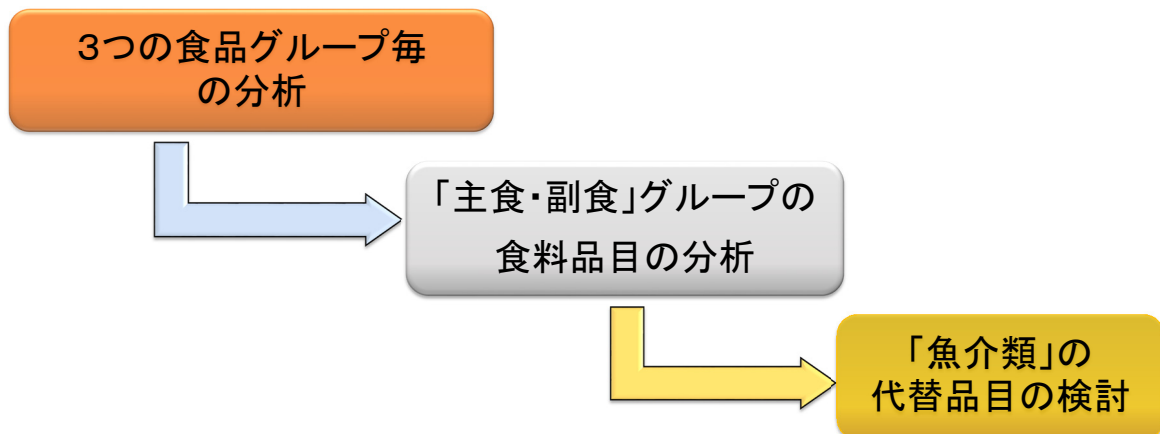
2. 食料支出における「魚介類」支出について (平成16年)

2-1. 対象とするデータ: 12食料品目

3つの食品グループ



2-2. 研究の流れ



2-3. 3つの食品グループ毎の回帰分析(1)

x : 世帯主の年齢階級

y : 3つの食品グループの支出額

世帯主の年齢階級

- ①「主食・副食」グループ(5品目)
- ②「嗜好品」グループ(5品目)
- ③「その他」グループ(2品目)

3つの食品グループ



回帰式 $y = \alpha + \beta x$



2-3. 3つの食品グループ毎の回帰分析(2)

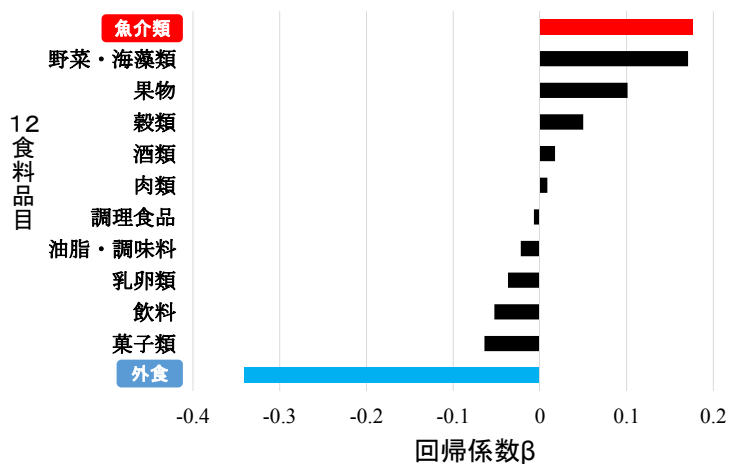
食品グループ	α	β	決定係数
主食・副食	441.0	206.4	0.089
嗜好品	1,999.5	74.7	0.236
その他	7,323.6	-16.1	-0.002

2-4. 「主食・副食」グループの食料品目毎の回帰分析

食料品目	α	β	決定係数
魚介類	6.298	0.272	0.138
野菜・海藻	18.225	0.184	0.066
穀類	27.350	-0.089	0.010
乳卵類	16.576	-0.114	0.046
肉類	31.551	-0.252	0.140

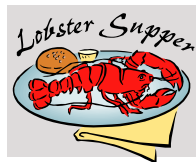
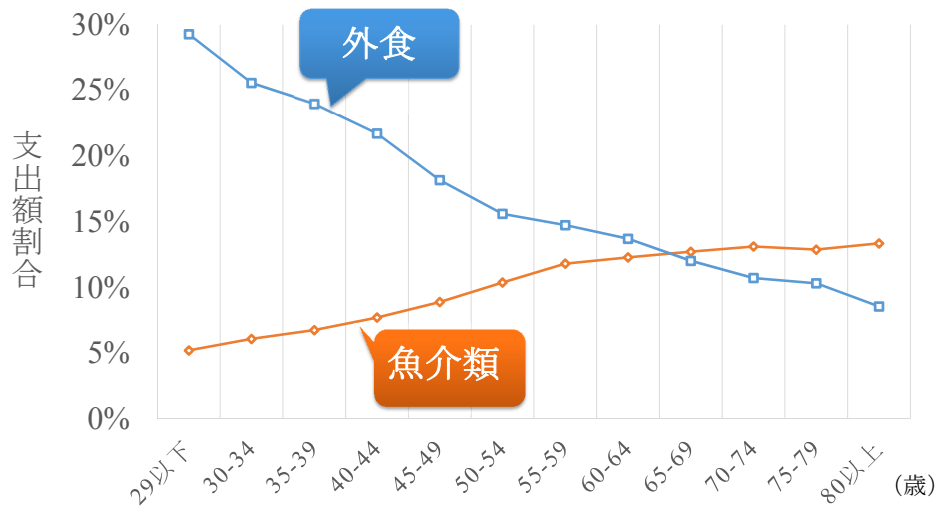
世帯主の年齢が低いほど「魚介類」の割合が小さい

2-5. 魚介類に代わる若年層の支出 (1)



世帯主の年齢が低いほど「外食」の割合が大きい

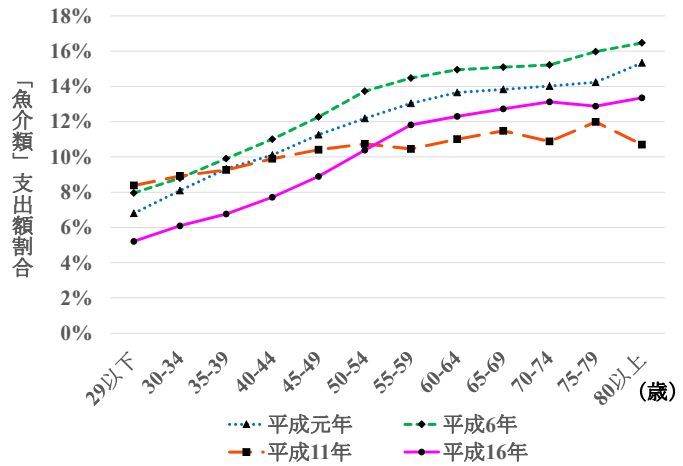
2-5.魚介類に代わる若年層の支出 (2)「魚介類」と「外食」の比較



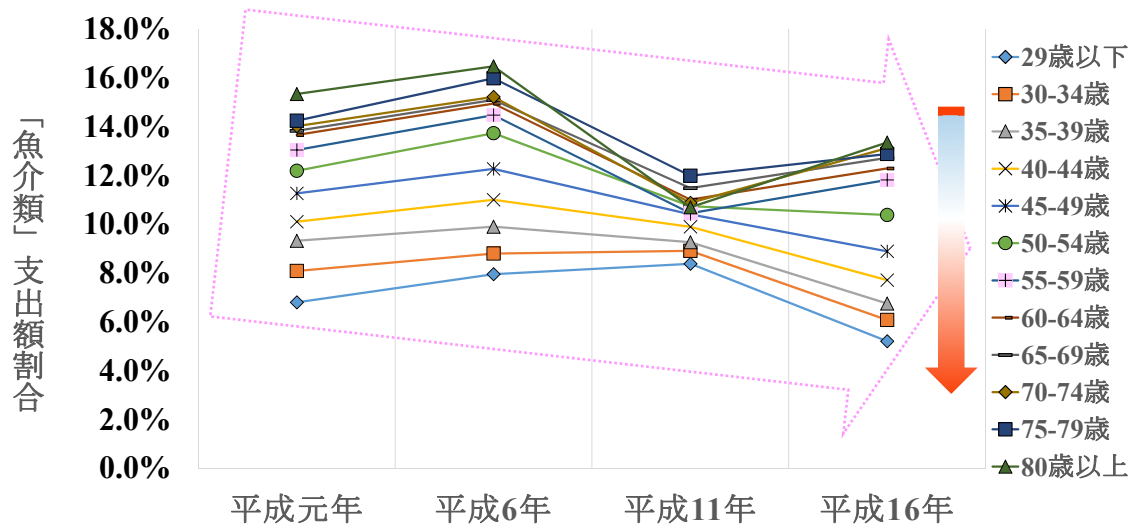
3.「魚介類」の支出額の経年変化

3.1 各調査年の「魚介類」の支出額と年齢階級

年齢階級	平成元年	平成6年	平成11年	平成16年
29歳以下	6.8%	8.0%	8.4%	5.2%
30-34歳	8.1%	8.8%	8.9%	6.1%
35-39歳	9.3%	9.9%	9.3%	6.8%
40-44歳	10.1%	11.0%	9.9%	7.7%
45-49歳	11.3%	12.3%	10.4%	8.9%
50-54歳	12.2%	13.7%	10.7%	10.4%
55-59歳	13.0%	14.5%	10.5%	11.8%
60-64歳	13.7%	14.9%	11.0%	12.3%
65-69歳	13.8%	15.1%	11.5%	12.7%
70-74歳	14.0%	15.2%	10.9%	13.1%
75-79歳	14.2%	16.0%	12.0%	12.9%
80歳以上	15.3%	16.5%	10.7%	13.4%



3.2 年齢階級別の「魚介類」の支出額の割合の推移(1)

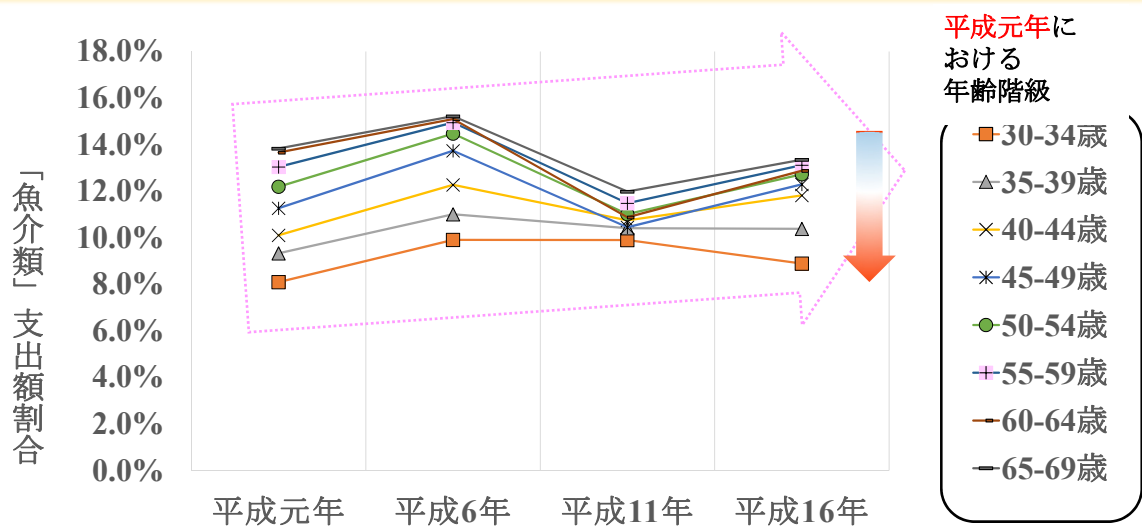


3.2 年齢階級別の「魚介類」の支出額の割合の推移(2)

- 平成元年に同じ年齢階級に属する世帯主の「魚介類」の支出額割合の推移

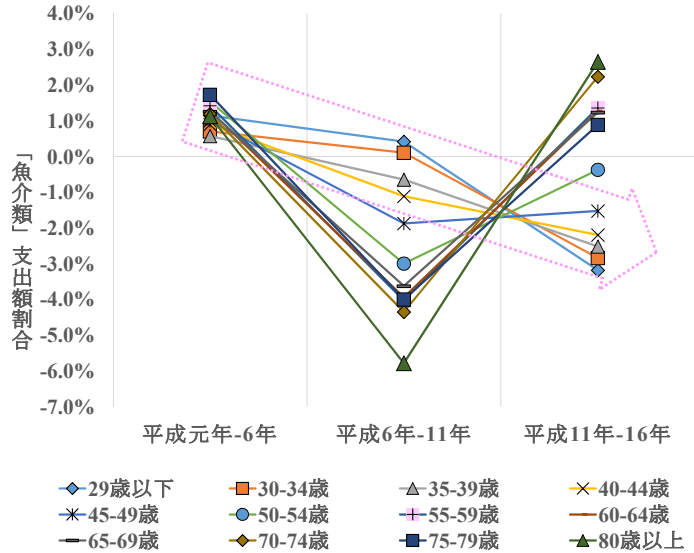
年齢階級	平成元年	平成6年	平成11年	平成16年
29歳以下	6.8%	8.0%	8.4%	5.2%
30-34歳	8.1%	8.8%	8.9%	6.1%
35-39歳	9.3%	9.9%	9.3%	6.8%
40-44歳	10.1%	11.0%	9.9%	7.7%
45-49歳	11.3%	12.3%	10.4%	8.9%
50-54歳	12.2%	13.7%	10.7%	10.4%
55-59歳	13.0%	14.5%	10.5%	11.8%
60-64歳	13.7%	14.9%	11.0%	12.3%
65-69歳	13.8%	15.1%	11.5%	12.7%
70-74歳	14.0%	15.2%	10.9%	13.1%
75-79歳	14.2%	16.0%	12.0%	12.9%
80歳以上	15.3%	16.5%	10.7%	13.4%

3.2 年齢階級別の「魚介類」の支出額の割合の推移(3)



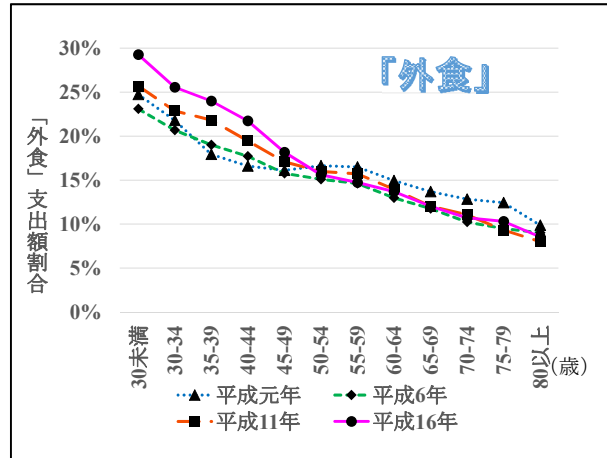
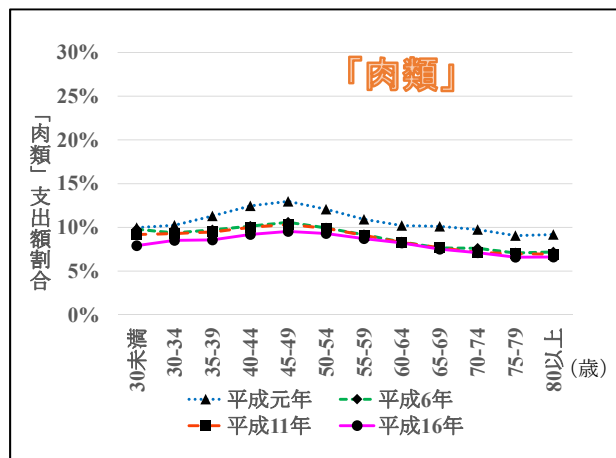
3.3 「魚介類」支出の割合の変化率の推移

年齢階級	平成元年-6年	平成6年-11年	平成11年-16年
29歳以下	1.2%	0.4%	-3.2%
30-34歳	0.7%	0.1%	-2.8%
35-39歳	0.6%	-0.6%	-2.5%
40-44歳	0.9%	-1.1%	-2.2%
45-49歳	1.0%	-1.9%	-1.5%
50-54歳	1.5%	-3.0%	-0.4%
55-59歳	1.4%	-4.0%	1.4%
60-64歳	1.3%	-3.9%	1.3%
65-69歳	1.3%	-3.6%	1.2%
70-74歳	1.2%	-4.3%	2.2%
75-79歳	1.7%	-4.0%	0.9%
80歳以上	1.1%	-5.8%	2.7%



3.4 「魚介類」以外の支出額の割合との比較

- 「魚介類」と同様に調査年と関係なく、**食料品目固有**の特徴がある。



4.まとめ

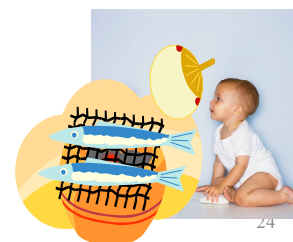


23

4-1 結果



- 食料品目において支出額割合が年齢階級に最も影響を受ける食品項目は「魚介類」であり、年齢階級が若いほど「魚介類」の支出額割合が少なくなっている。
- 若者が「魚介類」の代わりとして「外食」への支出額割合が大きくなっていることで、食生活の欧米化やライフスタイルの変化、食料品の形態変化の影響が考えられた。
- 調査年に関係なく年齢階級が低いほど、「魚介類」の支出額は低い。
- 年齢を経ても「魚介類」支出額の大きな変化はない。
 - 年齢に関係なく、すでに若いころから消費傾向が決まっていると考えられる。
- 「若者の魚離れ」の対策として、若年層からの魚食に関する食育の重要性が高いことを示すことができたと考えられる。



24

4-2 今後の課題

1. 今回は二人以上世帯を対象とした「匿名データ」を用いた。
 - 次回は単身者を対象としたデータを用いた分析を行い、「魚介類」支出額の家族の特性を考慮した分析を行う予定である。
2. 平成25年12月に「和食;日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことにより、日本の食文化が見直されてきている。
 - 「匿名データ」を用いて、この登録がなされるまでの食文化の変遷を「魚介類」だけでなく他の食料品目との関連を探りたい。

参考文献

- 1) 農林水産省: 我が国における魚介類摂取の特徴,
< http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/gyokai/g_kenko/tokucyo/ > , (参照 2014/11/1).
- 2) 水産庁: 水産業をめぐる情勢の変化
< http://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/kihonkeikaku/pdf/shiryo2_4.pdf > , (参照 2014/11/1).
- 3) 農林水産省: 第2節急速に進む「魚離れ」～魚食大国に翳り
< http://www.maff.go.jp/hakusyo/sui/h18/html/s1_1_2.htm > , (参照 2014/11/1).
- 4) 水産庁: Fast Fish(ファストフィッシュ)関係資料
< <http://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/shiawase2.html> > , (参照 2014/11/1).
- 5) 佐藤 和美, 薬師寺 國人: 若者の魚嗜好と魚食の実態研究,
鎌倉女子大学紀要, 第10号, pp.111-118 (2003).
- 6) 笹谷 知輝, 大野 嵩護: 年代別の魚食傾向に関する考察 –教育用擬似マイクロデータを用いて–,
SASユーザ総会2014, pp.893-898 (2014).

御清聴ありがとうございました